

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

スポーツ公園を拠点とした福智町「賑わいと活力増進」施設整備事業

2 地域再生計画の作成主体の名称

福岡県福智町

3 地域再生計画の区域

福岡県福智町の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

本町の課題として平成 27 年の国勢調査では 22,871 人であった人口が最新の令和 2 年には 21,398 人で 1,473 人、6.4%の減少となっている。本町が位置する田川地域についても同様に、特に田川郡部に限れば 7.6%とさらに悪化している。それに伴う人口減少、少子高齢化に伴うイベント参加者数やボランティアスタッフの減少により、盆踊りと花火大会を中心とした「水と灯火の夕べ」や、国際車いすテニス大会の外国選手と触れ合う交歓会をはじめ、町を盛り上げてきた事業が消滅するなど活気が失われつつある。そうした状況を打開し最終的な定住促進を実現するためには、まずは交流人口の増加につながる人を集める施策が最優先となる。これまで町のシンボルイベントとして「福智スイーツ大茶会」の実施、開館 5 年で来館者 50 万人を達成した「図書館・歴史資料館ふくちのち」の建設、ふるさと納税の寄付額は過去最高の 27 億円を超えるなど各政策は一定の成果をあげているが、人口減少に歯止めがかかっておらず、今後はさらなる交流人口増加に向けた新たな町の魅力の創出が必要である。今日までの体育行政においては体育協会を中心に生涯スポーツ活動の推進や競技力向上、スポーツを通じた地域住民の交流に重点を置いたものであった。各種スポーツ大会の誘致やスポーツイベントへの参加クラブチームの合宿等町外からの来訪者による「スポーツを通じた地域の活性化、魅力あるまちづくり」という意識が欠如していた。2021 年にコロナ禍で成功を収めた「東京オリンピック」というスポーツの祭典を鑑み、スポーツで地域に「潤いとにぎわい」という観点から「ボルックバレット北九州」とフレンドリータウン協定を締結し、スポーツという新たなコンテンツによる誘客を行うこととした。しかし町内のスポーツ施設は主に町

民を対象とした多目的施設のみであり、この協定を最大限に生かし、定期的な交流人口増加や地域活性化の拠点となりうる施設が存在しない。本計画の整備予定地であるスポーツ公園は、多目的グラウンド、テニスコート、多目的広場で構成されており以前は飯塚国際車いすテニス大会のサブ会場として使用されていた。令和元年を最後に本町が事業から撤退したため、現在は、グラウンドのみの貸し出しとなっており、その利用者も町内の少年サッカーチームと地元老人クラブのグラウンドゴルフに限られ利用料も発生していない。

4－2 地方創生として目指す将来像

【概要】

本町は平成 18 年 3 月旧金田町・方城町・赤池町の 3 町が合併して誕生した。福岡県の北部に位置し、県庁所在地の福岡市及び北九州市から 1 時間程度で移動可能な距離にあり、国指定伝統的工芸品である「上野焼」や、町内外から毎年 3 万人の登山客が訪れる北部九州が誇る名山「福智山」等の観光資源が点在し、四季折々を楽しむ要素はあるが、現状では広く周知されているとは言い難い。平成 27 年の国勢調査では 22,871 人であった人口が最新の令和 2 年には 21,398 人で 1,473 人、6.4%の減少となっており、全国平均 0.69%の減少と比較しても突出して高い数値となっている。人口減少、少子高齢化で、イベント参加者数の減少やそれに伴う事業の消滅などにより失われつつある活気を取り戻すため、「第 2 期 福智町まち・ひと・しごと総合戦略」において基本目標の一つとしている「福智町への新しい人の流れをつくる」ことを基軸にこれまで、毎年 3 万人以上が訪れる九州最大級のスイーツイベント「福智スイーツ大茶会」、国指定伝統的工芸品上野焼を求め 1 万人が陶の里を訪れる「上野焼陶器祭り」（春秋 2 回開催）などの大規模イベントを実施し一定の成果をあげてはいるが、一時的なものであり、定期的な交流人口の増加には結びついていない。そこで以前より交流のあったプロフットサルチーム「ボルクバレット北九州」と一緒に町を元気にできないかと協議を重ねた結果、2020 年 7 月「ボルクバレット北九州」とフレンドリータウン協定を締結。また、Vリーグ参入を目指す女子バレーボールチーム「カノアラウレアーズ福岡」と 2021 年 8 月にフレンドリータウン協定、2022 年 3 月にはホームタウン協定を締結し、影響力の高いスポーツの力で町に人を呼び込み地域経済の活性化や定住促進を推進する「スポーツを通じた地域の活性化、魅力あるまちづくり」を目指し、活動を開始した。中学校での部活動指導や Fリーグの大会へのボランティアスタッフとしての参加することにより貴重な体験を通して生徒たちも貴重な体験をして刺激を受けている。2022 年 6 月にはバレーボールアカデミーも開校し 9 名ではあるが町外からの参加者もあり徐々にではあるが成果もあらわれている。ボルクバレット北九州は九州でも 2 チーム、福岡県では唯一

のプロフットサルリーグ（Fリーグ）のトップカテゴリー（F1）に所属するチームであり、オリンピックの正式種目に採用されたニュースポーツ「スケートボード」「バスケットボール 3X3」についてもプロ選手と事業提携しているなどそのコネクションは本町にとっても大きな地域資源となる。2021年にコロナ禍で成功を収めた「東京オリンピック」というスポーツの祭典を鑑み、スポーツで地域に「潤いとにぎわい」という観点から、この協定を最大限に生かし、定期的な交流人口の増加につなげていくためには事業を展開する拠点施設が必要であるが、現状ではその目的に適した施設が存在しない。そこで温泉施設「日王の湯」及び宿泊可能な生涯学習施設「ふれあい塾」、年中利用可能な温水プール「B＆G海洋センター」が徒歩圏内にあり、既存施設や地元商工会と連携することにより地域経済の活性化と相乗効果の期待できる「金田ふれあいスポーツ公園」を総合スポーツ施設へ再整備する。スポーツという新たなコンテンツによる誘客を行い、既存の観光資源と組み合わせることで、最終的に地域経済の活性化や定住促進を推進することができる。従来福智町はフットサルやグラウンドゴルフ等スポーツが盛んであり、「スポーツ」に親しみやすいという地域性を活かし新しい拠点を整備することにより様々な地域の方々との「にぎわい」が創出でき、その中で「福智町」を知っていただくことによって観光・産業分野へと好循環サイクルの構築を図る。又オリンピック等国际舞台で活躍できるアスリートの育成にも力を注ぎこの施設から多数のアスリートが誕生できるよう官民共同で事業を展開していく。

（数値目標）

K P I	事業開始前 (現時点)	1 年目 2022年度 増加分	2 年目 2023年度 増加分	3 年目 2024年度 増加分	4 年目 2025年度 増加分	5 年目 2026年度 増加分	K P I 増加分累計
金田ふれあいスポーツ公園利用者数（グラウンド除く）	0	0	25,200人	600人	600人	600人	27,000人
施設利用料（クラブハウス、フットサル場、スケートボードパ	0	0	27,120,000円	400,000円	400,000円	400,000円	28,320,000円

ーク、3X3コート)							
プロチーム、外部講師を招いた集客イベント実施数（フットサル、スケートボード、3X3	0	0	3回	0	2回	1回	6回

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2の③及び5-3のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007（拠点整備）】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

金田ふれあいスポーツ公園再整備事業

③ 事業の内容

本町の地域資源の一つであるプロフットサルチームである「ボルクバレット北九州」のトップリーグで活躍する選手の技術力や100社以上のスポンサーを持つコネクションを活用し金田ふれあいスポーツ公園を再整備し、人口芝のフットサル場を3面設置することで地域活性化の拠点施設とする。本町ではフットサル人気が高く、施設予約の問い合わせが多くあるが、体育館は他競技との兼ね合いもあり施設不足が課題となっている。また利用者からケガのリスクが低い人工芝完備の施設で競技をしたいとの要望も多い。再整備後は、フレンドリータウン協定を締結している「ボルクバレット北九州」による指定管理も視野に入れており、トップリーグ（F1）に所属する選手から直接指導の受けられるス

クールや一流のテクニックを間近で見ることのできるエキシビションの開催など、県内でトップクラスの環境を整備することが可能である。又、フットサル場と隣接した2階建て約183㎡のクラブハウスを建設する。1階には各施設利用時の受付や、ロッカールーム、シャワールーム、各種教室を実施できるトレーニングスペース、コミュニケーションスペースも完備しスポーツ利用者のみならず地元のお年寄りから子どもまで多くの人ができる施設とする。2階はスクールに通う子供たちの保護者がくつろげるスペースとしてフットサル場を一望できるテラス席を設置するなど多目的利用に対応する総合施設としての機能を整備する。更に、ニュースポーツを体験する場としてゴムチップ舗装のバスケットコート（3×3）2面、近年競技人口が急増しているスケートボード専用パークも併設し、近隣には無い複合施設とする。整備予定地は公共交通機関で直接移動することが困難であり、遠方を含めた来場者は車が主な移動手段になる。現状では約50台分の駐車場ではあるが、今回の再整備により近隣市町村に先駆けた複合スポーツ施設となり多くの利用者が見込まれ、土日祝日など100人以上が訪れた場合は満車に近い状態になると想定される。またボルクバレット北九州の持つノウハウとコネクションを活用し、アーティストやプロアスリートを招いたイベントも予定しており、ステージ設置や露店が展開できるスペースとしても活用することを想定しており、その際にはより多くの駐車場が必要となる為32台分の駐車場を増設する。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

施設利用者数は近隣同規模施設の利用状況を聞取調査した結果、月平均1,500人が来場していた。整備施設の規模を含めて検討した結果、本施設の利用者を月平均1,800人と試算し、クラブハウス、スケートボード、3×3の利用者を月300人で計算した結果、年間約25,000人の来場者を見込んでいる。フットサル場の施設利用料は類似施設平均が1時間約6,000円となっており、1団体2時間使用で試算、スケートボード、3×3に関しては時間単位ではなく1回500円で計算し、合計で年間27,120千円を見込んでいる。これは想定利用者数に同規模施設の利用料を参考にした金額を乗じて算定している。また事業収入と支出の差額については、将来的な施設の補修や人工芝の張替え等の大規模修繕の財源として確保する。

【官民協働】

行政としては、「スポーツ」による誘客可能な施設整備及び民間活力を取り入れた事業を展開していく。具体的にはフレンドリータウン協定を締結しているボルクバレット北九州がすでに実施している企業主体の大規模大会の誘致やプロ選手が指導するスクールを開催する。このような競技の第一線で活躍するチームからのアドバイスを施設運営に反映させることで「スポーツを通じた地域の活性化、魅力あるまちづくり」を目指し、その拠点施設を共に創りあげていく。又、本事業はスポーツによる交流人口の増加を最優先目標に位置付けており、地域への経済効果の波及は地元商工会との連携が必要不可欠である。施設利用者へのクラブハウスでの飲食や特産品の販売、イベント開催時の露店・キッチンカー出店により、地域経済の活性化だけではなく施設利用の促進にもつながる相乗効果が期待できる。

【地域間連携】

福智町の人口推移は国勢調査によると平成27年から5年で6.4%の減少となっており、福岡県では0.7%の微増となっている。田川市郡8市町村（田川市、香春町、添田町、糸田町、川崎町、大任町、赤村、福智町）は6.5%の減少となっており、この厳しい状況を打開する広域的な事業を展開していく。具体的には福智町に本社を置き田川をつなぐ地域鉄道「平成筑豊鉄道」との運賃・施設利用料セット券の販売や、車体に施設のPRイラストを塗装する等の業務提携を結ぶ。又最寄りの金田駅よりスポーツ公園へシャトルバスを運行させる。更に田川広域観光協会を活用した施設のPR、郡民体育大会での施設の活用等、地域全体で活性化を図る。

【政策間連携】

福智町はプロフットサルチーム「ボルクバレット北九州」とフレンドリータウン協定を締結、又女子バレーボールチーム「カノアラウレアーズ福岡」とホームタウン協定を締結しており本施設完成後はこれらの締結チームと最大限に共同し各種大会、イベント、スクール等の事業を展開することで「スポーツによる地域の活性化」を実現するべく施設の価値向上に努めていく。又まちづくり総合政策課が中心となり「総合戦略」に政策パッケージとして掲げている例年3万人以上が訪れる九州最大級のスイーツイベント「福智スイーツ大茶会」、国指定伝統工芸品上野焼

きを求め1万人以上が陶の里を訪れる「上野焼陶器祭り」（春秋2回開催）等の大規模イベントを実施し交流人口の増加を目指してきた。また複合施設として誕生した「図書館・歴史資料館 ふくちのち」は開館5年で来館者50万人を達成するなど政策的には着実に成果をあげてきてはいるが人口減少に歯止めがかからない状況である。同戦略に掲げる「創出観光入込客数：120万人以上」「シンボルイベント経済効果1億円」を達成すべくこの政策に「スポーツ」を加え、新たな分野で新たな層の来訪者を開拓しその方々が常に満足できるスポーツ施設として維持管理していきリピーターとして利用機会増となる好循環サイクルを構築していく。更に本事業に関連するキャラクターグッズ等のふるさと納税返礼品開発、「図書館・歴史資料館 ふくちのち」や「福智スイーツ大茶会」においてプロ選手による実演等集客率を高めるよう連携強化を図る。福祉担当課とも連携し、子育て世代や高齢者を対象としたレクリエーション等も企画し育児や生活習慣病予防対策といった少子高齢化問題改善についても寄与していく。

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標KPI）

4-2の【数値目標】に同じ

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証時期】

毎年度6月

【検証方法】

例年6月に実施する福智町地方創生推進委員会会議において「スポーツ公園を拠点とした福智町「賑わいと活力増進」施設整備事業の概要を説明し、大学関係者や産業関係者など様々な分野からの視点で意見を聴収する。

【外部組織の参画者】

福智町商工会、日本航空株式会社、福岡県立大学、教育委員会、株式会社西日本シティ銀行、福智町社会福祉協議会、西日本新聞社、弁護士

【検証結果の公表の方法】

検証後、町ホームページ公表予定。

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 240,000千円。

⑧ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2027年3月31日まで。

⑨ その他必要な事項

特になし。

5—3 その他の事業

5—3—1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

5—3—2 支援措置によらない独自の取組

(1) フレンドリータウン及びホームタウン協定事業

ア 事業概要

第2期福智町まち・ひと・しごと創生総合戦略にも中の基本事項に提言してある「都市部への人口流出の流れを変える」という観点から2020年7月「ボルクバレット北九州」とフレンドリータウン協定を締結し、又2022年3月にVリーグ参入を目指す女子バレーボールチーム「カノアラウレアーズ福岡」とホームタウン協定を締結した。今後スポーツの力で町に人を呼び込み地域経済の活性化や定住促進を推進する「スポーツを通じた地域の活性化、魅力あるまちづくり」を目指し実技指導やスクール等活動を展開していく。

イ 事業主体

福岡県福智町

ウ 事業実施期間

2022年4月1日から2027年3月31日まで。

6 計画期間

地域再生計画の認定から2027年3月31日

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の方法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、5-2の⑥の【検証時期】に7-1に掲げる評価の手法により行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。